

美原区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体					
第23回(平成30年度)みはら芸術展		みはら芸術展実行委員会					
事業目的	事業効果	活動指標	H28	H29	H30		
美原区域の住民・団体の協働による事業を通じて、地域コミュニティの活性化と自主的な魅力あるまちづくり意識の高揚を図る。また、住民に芸術文化に触れる機会を設け、この芸術文化活動の交流の場を通して、住民の芸術文化に対する意識の高揚を図ることで心豊かな市民生活を伸長する。	区域住民自らが企画・運営、参加することにより、区域の一層の親睦、連帯、交流を深め、明るく、住みよい、活気と愛着あるまちづくりを推進するとともに、住民が主体的に行うまちづくりのための人材育成が期待できる。また、芸術文化の発展を支える幅広い人材育成と文化的で豊かな住民生活を推進することができる。	①出展数 (小中学生作品展)	136点 (1,106点)	144点 (1,111点)	149点 (1,208点)		
		②来場者数 (小中学生作品展)	1,018人 (754人)	1,069人 (794人)	1,067人 (771人)		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
○	区民と協働で実施することで、美原区の芸術・文化活動の発展や、区域の連帯、交流を図ることができた。	◎	実行委員会へ自主的に参加希望された区内の芸術愛好家たちが、イベント内容の企画、運営を行う一方、実施に向けた調整や事務等については、事務局である行政が担っており、協働して事業を実施できた。	○	本展、小中学生作品展ともに出展数は増加傾向にあり、今年度も多くの来場者で賑わった。絵画を通じた地域の世代間交流の一助となった。また、アンケート集計結果から、人気があった作品を区役所や図書館に展示し、区民が身近な場所で芸術文化にふれあう機会を創出した。	○	出展者については費用負担をしてもらい、出展にかかる経費に充当している。区民である実行委員自らが積極的にポスター掲示やチラシを配付した。また、チラシの回覧を各自治会に依頼したことで、効率的に事業をPRすることができた。
⑤自立発展性		総合評価					
—	本事業は、行政と区民との協働事業であり、区民の自主的な活動・取組が求められるものは、積極的にその促進を図っている。	○	当日の準備・運営には実行委員をはじめとしたボランティアスタッフがー丸となって従事し、円滑に進めることができた。小中学生作品展の展示場所である区役所6階は、子どもたちの自由な発想で描かれた色鮮やかな絵であふれ、多くの来場者を魅了していた。また、区役所1階に白い段ボール製の大きな家を組立て、壁に自由に絵を描いてもらうワークショップを開催した。来場者には普段とは違う環境で大胆に絵を描くことを楽しんでもらえた。会場内で実施したアンケート結果についても、イベント全体を通して、おおむね好評であった。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 継続 見直し 廃止	作品の出展者は、美原区内で活動しているクラブ生が多くを占めており、固定化しつつある。引き続き、新たな出展者の参画のために、周知方法等の検討が必要である。また、「みはら小中学生作品展」は今回で4回目を迎え、小中学校の協力により、過去最高の出展数となった。ただし、子どもの来場者数は229人で、昨年度より40人程度減少した。今後は、子どもも含め、より多くの人に見てもらえるよう、展示方法・内容の工夫やPR方法等の検討が必要である。						